

課題情報シート

テーマ	江津駅前プロジェクト ～江津の新たなデザインを～		
大学校	中国職業能力開発大学校附属島根職業能力開発短期大学校		
ホームページ	www3.jeed.or.jp/shimane/college/		
電話番号	0855-53-4603（学務援助課）		
訓練課程	専門課程	訓練科	住居環境科
担当指導員	竹口 浩司		

開発（制作）年度・期間

2017 年度 ・ 10 月

ヒアリング調査：3ヶ月、設計計画：2ヶ月、図面作成：2ヶ月、模型制作：1ヶ月

プレゼンテーションボード・CG制作：2ヶ月

開発（制作）学生数

1名

習得した技能・技術

これまで建築設計・計画において習得したスキルをもとに、江津駅の横にある老朽化した複合ビル（通称：軍艦ビル）の建て替え計画に伴い学生による江津駅周辺のランドデザインを描きながら新たな複合施設を提案しました。

専門家を含めた関係者からのヒアリング、実際の敷地や都市計画を学び、地域の課題分析、江津市駅前の都市計画、そして江津駅を含めた複合施設の計画を行い、建築設計における諸問題に対して総合的に対応できるスキルを習得しました。

開発（制作）のポイント

校内での設計課題とは異なり、関係者や有識者へのヒアリング、一般の方へのアンケート調査から地域課題を含めたソーシャルデザインを行い、自己的な提案にならないよう勧めました。地方が衰退し、人口が減少する地方で新たな建築を考えることは困難ですが、それを学生自ら考えた計画を広く知ってもらうことを目的としてプレゼンテーションボードから模型製作を行いました。商業施設の計画では、若者の流出を防ぎUIターン者を増やす為若者をターゲットとし、既存の駅前ビルと特産品である瓦の登り窯をイメージさせる新しい中にも懐かしさを感じる新駅前ビルを計画しました。自然や駅前、市役所などのランドデザインも考え、既存店舗やチャレンジショップ、インバウンドとしてゲストハウスなどヒアリングやアンケート調査を踏まえた若者の解釈として具現化させました。地元のお店及び工業高校との合同発表会では、過疎化が進む地方でも新たな建築を考えることができることを感じていただき、講評された方からも、狙いが伝わったとのコメントを頂きました。模型にお

いては、スチレンボードなどを使用せず、木材を使用することにより専門課程で習得した木材加工技術を応用した模型の製作に取り組みました。さらに、地域のコミュニティセンターで展示することも考えさらに建築に興味を持ってもらうような模型を目的として製作しました。

また、来年度には、現駅前ビルでのチャレンジショップリノベーションにつなげることも考えて街みの提案も行い、実現する方向で進んでいます。

訓練（指導）のポイント

ヒアリングやアンケート調査でも何を聞くべきかを学生に考えさせ自ら地域の課題に気づけるよう指導しました。街を歩きながら周辺調査も新たな気づきが生まれるよう数回行いました。また、自立的な計画にならないよう指導を行いました。過程においては、学生が計画した案では、経営が不可能だったり、施主の意向にそぐわなかったりした計画もありましたが、そこは、普段の設計課題とは違い、様々な人が関わることの難しさを学んでくれました。

また、学生は、計画だけでなく作ることに組みたいと希望していたことから模型を木材で製作するよう勧め、それがプレゼンテーションでも活かることになりました。更に中盤からは、来年度にも繋がる提案を行うよう少しずつウエイトを設けるような指導を行いました。

開発物の仕様

項目	内容
プレゼンテーションボード	A 1 : 2 枚
模型	1800×1800mm

使用機器

開発において使用した機器等（機器名・メーカー・型番）

CAD ソフト（JW_CAD®）、CG ソフト（SketchUp®）、パネルソー、横切丸のこ盤、ベルトサンダー、

参考文献

--

江津駅前プロジェクト ～江津の新たなデザインを～

中国職業能力開発大学校
附属島根職業能力開発短期大学校

1. はじめに

江津駅前ビル（通称：軍艦ビル）は昭和42年に竣工された5階建てのRC造である。ここに、まちづくり会社(株)Sから老朽化が進む江津駅前ビルを、江津駅周辺のソーシャルデザインを踏まえ、地域のランドマークとなる商業施設を建設したいとの考えを知った。

そこで、新たな江津駅前ビルの設計を行い、単に商業施設として計画するのではなく、江津駅前の地域課題や駅周辺のランドデザインを考えた計画を立てる事にした。関係者とのヒアリングやアンケート調査を通じて、地域課題を把握し、それらを踏まえ、若者の視点からソーシャルデザインを考えた商業施設の計画から駅周辺のランドデザインを行う。更には、江津らしい街並みとして江津の素材を取り入れた新江津駅前ビルとして提案する。

2. ヒアリング・アンケート調査

江津駅周辺のソーシャルデザインや新駅前ビルを計画する為、ヒアリングやアンケートから、駅前ビルの情報や江津駅周辺の課題、要望を調査した。

2.1 ヒアリング調査

江津市役所、商店街、建築関係者とのヒアリングを通じ、多くの課題点や要望が上がった。その中でも、江津は過疎化が進み、若者が都会に流出する為、若者の賑わいが欲しいという要望や、日中営業しているお店が少ないという課題がみえた（図1）。

2.2 アンケート調査

11月に行われた新江津市庁舎ワークショップにて一般の方の意見を聞く為、アンケート調査を行った。ヒアリング調査と共に駅前に賑わいが欲しいという意見が多く、江津ならではの物を活かしながら、多くの人が集まれる空間が求められている。



図1 ヒアリング調査結果

3. 新駅前ビル設計

3.1 ターゲット

これからの江津を盛り上げるのは10代から30代であり、人口流出を防ぐためにこの世代が楽しみ、更に若者が集い賑わい、チャレンジできる場所を提供する。

3.2 コンセプト

江津の特産品である瓦は昔、登り窯で作られていた。その登り窯のイメージと、今までの駅前ビルの面影を残し、新しい中にも懐かしさを感じるような新駅前ビルとする。

更に、山と海が繋がる場所で、江津市庁舎の旧市街と新市街を繋げる場のように、人と人、食、物、学びが繋がる場として空間を表現した(図2)。この場で繋がり、老若男女多くの人が集まり賑わえるようなカフェや本屋、チャレンジしやすいショップの利用、インバウンドとしてのゲストハウス等、ヒアリングやアンケート調査等を踏まえた若者の解釈として具現化させた。新軍艦ビルとも呼ぶこのビル(船)が多くの人、物と交わり、繋がり、発展していくことで、江津市の未来を導く建物となる。

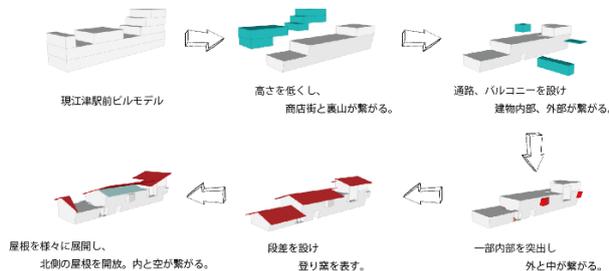


図2 ダイアグラム

4. 江津らしい街並みの提案

新軍艦ビルでは江津の素材を中心に考える。屋根は石州赤瓦を葺き、北側の開放された屋根の裏側には地松を使用する。外壁は油薬を施したタイルを壁一面に張り、樋や配管は筒状の焼き物で覆い素材の統一美を表した。内装には、壁から床にかけて土壁を全面に施し、部屋の中にながら自然の土に包まれ、癒す空間を表現した。これらを踏まえ、江津らしい街並みをこの新軍艦ビルで提案する。

5. 図面作成

新軍艦ビルの平面図・立面図・断面図を、CADにより作成した(図3、4)。

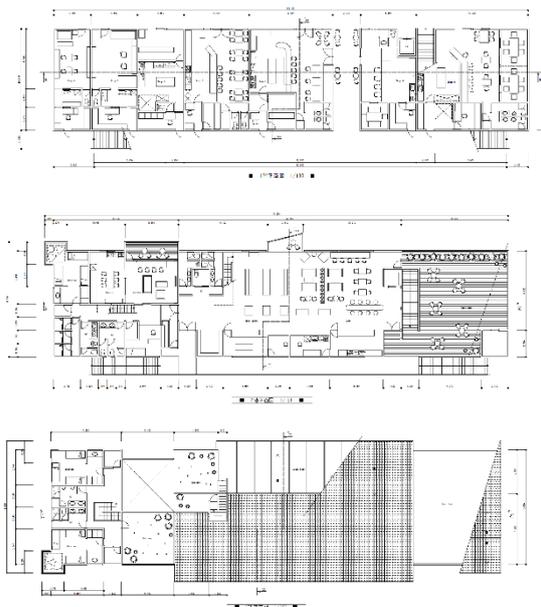


図3 新軍艦ビル 平面図



図4 新軍艦ビル 断面図

6. 模型作成

図面を基に新軍艦ビルを中心とし、江津駅からパレットごうつ、商店街を含めた駅周辺を1/100の模型で制作した。素材としてシナ合板を使用し、学生最後の集大成として木での模型製作に挑戦した。

7. おわりに

授業における設計課題では、自分の思い描いたイメージを組み立て、自由に制作をしていたが、本総合制作実習では施主や多くの人の要望を踏まえた上の設計であった。その為、試行錯誤する点が多くあり、設計の楽しさや難しさを痛感した。そして、周りの人に支えられながら様々な建築物は出来上がるのだと改めて実感した。

また、江津駅前の再開発が進められる中で今回の提案が参考とされ、少しでも江津市の活性化に役立つことができれば幸いです。

最後になりますが、ご協力していただいた(株)SのI氏を始め、ヒアリングやアンケート調査に関わっていただいた皆様、先生方に心より感謝申し上げます。